空飛ぶ王子①

(1) むかしのことであります。お城の近くで町の人が「お姫さまが、今日つれていかれるんだとさ、かあいそうだなァ」「ウム、人くいドラゴンのイケニエになるんだ。だれかドラゴンを退治してくれないかなァ」

(2) お城のひとまでは、フローラ姫がひとりで泣いています。「私は今夜、人くいドラゴンにつれていかれる。ああ、もうこのお城ともおわかれだわ」そこへ

(3) お父さんの王さまがはいってきて「フローラや、早くどこかへかくれておしまい」「いえ、そんなことをしたらこのお城はこわされお父さんやお母さんがころされます。私、ドラゴンにつれていかれます」

(4) そのうちに、ビューゴー、なまあたたかい風がふいてきて、日がくれてきました。山にすむ人くいドラゴンが年にいっぺん、少女をさらいにくるのです。ゴービュー

(5) 「おう、ドラゴンめいよいよくるな」「お父さん、私はもう、かくごしています。どうか、しあわせにくらして下さい」ガオーガーッ

(6) 「あーッ、お父さーん」「フローラ」姫も王さまもむねんの涙をながしますが、おそろしいドラゴンの手につかまれた姫はもう助かりません。

(7) マドから手をさしのべてフローラ姫をさらった人くいドラゴンは、大きなツバサをバタバタとはばたかせて山の方へととび去っていくのでした。

(8) やがて山のてっぺんにつくと「ガオー、ギャース、ギャース、ガオー」と、さけびごえをあげて、やがて

(9) これからさらってきたフローラ姫をたべようとするのでした。このとき、この山にのぼってくるひとりの若者がありました。

(10) 「やッ、あれは見たこともない怪物だ。長いあいだ諸国をまわってきたえにきたえたウデをためす時は来た。よーし、あの怪物をたいじしてみよう」果して